

するものである。

39年度は対象者を45才以上の組合員として希望をとり希望者296名のうち抽せんにより210名を決定した。

実施病院は次のとおりである。

大原綜合病院	50名(1人)	10,000円(内補助5000円)
太田綜合病院	50名	10,000円(内補助5000円)
県立若松病院	50名	10,700円(内補助5000円)
竹田綜合病院	10名	11,000円(内補助5000円)
磐城共立病院	50名	10,600円(内補助5000円)

貸付事業

共済組合が自己の用に供する住宅を建築したり敷地を購入したり、あるいは臨時の支出のため資金を必要とする場合に共済組合が貸付を行なう事業である。

新年金法の施行に伴って貸付事業の資金の資金枠が増大したので昭和38年3月付をもって貸付規程が全面的に改訂され最高額20万円が100万円に大幅な引上げが行なわれた。この貸付枠の増加は自己資金が多少あれば一応住宅が建てられるようになったため組合員の住宅難緩和に大いに役立っている。また第一種付金についても最高額10万円となったので申込が増大し資金の都合により貸付が遅れている現況である。貸付状況は別表のとおりである。

別表

38年度		39年度		
貸付別	貸付件数	貸付金額	貸付件数	貸付金額
第1種	2,187	170,570,000円	1,184	103,100,000円
第2種	336	128,550,000	298	123,750,000
第3種	219	180,400,000	241	203,700,000
計	2,742	479,520,000	1,723	430,550,000

教職員スキー レクリエーション

共済組合が組合員のスキー技術の向上と、組合員互いの親睦を目的として毎年行なってきたスキー講習会を、今年度は、「スキーレクリエーション」と改めた。発足当時は、参加者から経費の一部負担金として、一人200円を徴収していたが、昭和34年度から経費全額を共済組合が負担することとなり、受講希望者が大巾に増えることとなった。会場は、沼尻、岳、高湯の3会場で、日程1泊2日とし、組合員(初心者)の技術向上を目的としてきたが、年々参加希望者が増加し、希望者全員を受講せしめることができないので、今年度は、少しでも多くの希望者に参加してもらうことに重点を置き、従来の「スキー講習会」を、「スキーレクリエーション」と改め、日程は1日となったが、三会場各1回開催であったものを、4会場各2回開催とし、県内広範囲の組合員が参加できるよう試みた。

- 会場 猪苗代、東山、岳、高湯
- 参加者 480人

銀婚式祝賀事業

昭和39年度よりの新規事業として毎月その月に銀婚式(25年)を迎える組合員に支部長の祝辞に記念品を添えて贈呈しその慶事をお祝いすることとなった。昭和39年度の該当者は104名(男99,女5)であった。

教職員レクリエーション大会補助

共済組合員等の親睦と健康増進を図るため、県教委、教員組合、医科大学等で開催するレクリエーション大会(球技大会、運動会)に、この経費として総額425,000円を交付した。各出張所別の補助額は次のとおりである。(配分額は均等割額と組合比例額の合計額である)

助成配分表 39.6.30現在

出張所別	組合員数	配分額
信 夫	2,313人	36,000円
伊 達	914	20,000
安 達	1,132	23,000
郡 山	1,899	31,000
岩 瀬	834	19,000
西 白 河	1,052	22,000
東 白 川	689	18,000
石 川	720	18,000
田 村	1,209	24,000
南 会 津	661	18,000
北 会 津	1,587	28,000
耶 麻	1,103	22,000
両 沼	1,027	22,000
石 沼	3,259	47,000
双 城	901	20,000
相 馬	1,437	26,000
事 務 局	183	12,000
医 科 大 学	759	19,000
合 計	21,679	425,000

へき地医薬品の配布

へき地に勤務する教職員にたいし1セット1,200円の啓急医薬品を毎年配布している。昨年配布を受けた組合員は2,430名でありへき地勤務者の大きな福音となっている。

第2節 福島県教職員互助会事業概況

県教職員互助会は県独自の福利事業として、昭和28年4月1日発足以来昭和39年度で12年を経過した。この間財政事情の許す限り給付の枠の拡大を図り会員の福利増進に寄与してきたが、最近3年の間で、著しい医療費の